

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立大川小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 健康・体力づくりでは、縄跳び運動で場やカード等を工夫したりすることで、体作りを推進することができた。積極的に運動する児童が増え、運動技能の向上がみられた。 「のびのびタイム」は、出番・役割・承認の場がきちんと確保され、スムーズに実施することができ、絆を深めることができた。 特色のある学校作りについては保護者から高い評価を受けており、今後も縦割り班を中心とした活動や、児童が主体となった学校行事や地域を素材にした授業等の取り組みを充実させていきたい。 学力向上「チャレンジタイム」の取り組みでは、2学期から条件を意識して書かせるようにしたところ、作文に書き慣れる児童の姿がみられた。 家庭と連携し「家読の日」に取り組んだが、学年に応じた選書などを紹介し、さらに読書の習慣化を図っていきたい。 本校では、人権・同和教育を積極的に推進し、心の教育やいじめの問題に取り組んでいる。しかし、傷つく言葉を友達にかけたり、些細なことでもけんかになったりする場合が見られる。特に最近ではトラブルの原因となる言動をインターネット等から影響を受け、使用していることもあり、保護者と連携しながら情報モラル教育を推進していく必要がある。
2 学校教育目標	「元気いっぱい、やさしさいっぱい、知恵いっぱい」の児童の育成
3 本年度の重点目標	<p style="text-align: center;">「元気いっぱい」①健康なからだづくりを意識して取り組む児童の育成</p> <p style="text-align: center;">「やさしさいっぱい」②人権学習、花いっぱい運動、「心の教育3点セット」の活用等による豊かな心の育成</p> <p style="text-align: center;">「知恵いっぱい」③小中連携による学力向上の推進</p>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上 「知恵いっぱい」	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上。	「授業づくり1・2・3」を活用し、全校で統一した学習過程で算数科授業を実施する。 ・小中連携での研究の推進	B	・学期に2度ほど研修を開き、学習規律や宿題について課題と取り組みを話しあい共通理解することができた。 ・学力向上対策シートに書いたマイプランを意識した取り組みができるように、月に一度職員連絡会等で授業や学力向上の取り組みを振り返る時間を確保した。	B	・月に一度連絡会等で職員全体で取組を振り返る時間をもちつうにしたことで、学力向上対策シートに書いたマイプランを意識して取り組むことができた。しかし、学習状況調査やCRTテストなどの結果は課題の残るものだったので、継続した取組や実態の分析などが必要と感じた。	B	特になし
	○小中連携による学力向上対策地域指定事業	○教師全員、年間1回の授業公開を行う。 ○研究指定公開授業(2年次)	・教師一人ひとりが「授業づくり1・2・3」に則った授業形態を実践する。 ・中学校区3校の教師が年に1回以上、それぞれの学校の公開授業に参加することで研究を深める。	B	・年一回の授業公開については、順調に進んでいる。 ・算数科においては、「授業づくり1・2・3」に則った授業実践ができている。他教科にも広げていきたい。 ・対話的活動の部分については、引き続き研究を深めていきたい。 ・他校の公開授業の参加については、感染状況をみながら進めていきたい。	B	・全職員、年一回の授業公開を行うことができた。事前事後のグループでの研究会も熱心に実践できていた。 ・対話的活動では、算数科を中心にペアやグループでの活動を多く取り入れた授業実践に取り組むことができた。教材研究の視点にも対話活動を意識できるようになってきた。児童が話すことへの抵抗感をなくしていくためにも、継続した研究を行っていきたい。 ・他校との交流は新型コロナウイルス感染拡大のため実施できなかった。	B	特になし
●心の教育 「やさしさいっぱい」	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○廊下が右側を歩き、元気なあいさつや返事をする児童の割合が80%以上。	・道徳や学級活動の時間に、「心の教育3点セット」を計画的に取り入れる。	C	「心の教育3点セット」については、年間計画に位置付けて活用している。いのちの教育資料集については、ふれあい道徳で各学年実施している。廊下の右側歩行は70%の児童ができていたため、今後も指導を続けていく。元気なあいさつや返事については、80%の児童ができていく。今年も指導していく。	B	「心の教育3点セット」については、全学年で授業の中で活用された。生活のめあてで「廊下歩行」について取り上げたことで廊下の右側歩行は85%の児童ができるようになった。元気なあいさつや返事については職員室の出入り等で指導を行っているが、大きな改善は見られないので、今後も指導して行く必要がある。	B	特になし
	●人権・同和教育の充実	○こころのアンケートでは「学校が楽しい」と答える児童の割合が80%以上。 ○共通教材や部活問題学習の全学年での実施。 ○人権教室の年3回の実施。	・こころのアンケート等を毎月実施し、児童の心の状態や人間関係の様子を詳細に把握する。 ・共通教材や部活問題学習などの互いの授業を年に1回は必ず参観する。 ・人権の意味や大切さに触れる機会にする。	B	コロナの影響により、人権教室については、年1回の実施の見通しであるが、各学年・各学級で、共通教材、部活問題学習などの授業を実施し、人権意識を高め合っている。いじめの調査を利用しながら、毎月心のアンケートを行い、児童の心の状態を把握しているが、楽しいと答えられている児童は、概ね80%を超えており、楽しい生活を送ることができている。その時に、イライラや不調を訴えた児童には、詳しく聞き取り、解消すべく対応している。	A	コロナの影響により、人権教室の実施ができなかった。来年度はオンライン等を検討する必要がある。共通教材、部活学習については今年度も各学年で実施ができ、人権意識を高めることができた。心のアンケートでは、学校が楽しいと答える児童が80%を超えていた。イライラや悲しいと感じていた児童には、個別に話を聞き解決に向けての対応を取った。	A	特になし
	◎縦割り班での異学年交流体験	◎縦割り班(のびのび班)の活動を、共遊や掃除、給食の時間などに意図的に仕組みながら交流を進める。	・高学年にリーダー意識を持たせるための役割を与える。 ・高学年で企画した共遊を月1回以上行う。	・給食試食会などPTAと連携した取組を行う。	B	コロナの影響により、8～10月は縦割り班での掃除や共遊の時間を確保できなかった。異学年交流が難しい状況下ではあったが、運動会では高学年一人ひとりが役割をもち、しっかりと自分の役割を果たすことができた。今後も、コロナ対策を行いながらできる限りの交流を行った。高学年をリーダーとした教育活動を考えたりして交流を行う。	B	11月～1月には、縦割り班で掃除や共遊(2回)を行うことができた。また、児童会活動でドッチボール大会を企画し、全校で楽しく活動することができた。	B
●健康・体づくり 「元気いっぱい」	○食育の充実 ・効果的な保健指導、治療率向上	○食の大切さに対する保護者や児童の意識を高める。 ○全学年で、朝食の喫食率と衛生面の管理(ハンカチの所有、爪を切る等)ができる割合85%以上。 ○健康診断結果に基づくむし歯の治療率を80%以上。	・給食試食会などPTAと連携した取組を行う。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、各学期に1回は朝食の喫食調査を行い実態を把握する。 ・各学年に応じた衛生の指導を行い、保護者にも指導内容を伝える。(感染症対策を含む) ・歯科衛生士と連携した保健指導や、歯や口に関する情報の提供、治療の状況確認を定期的に行う。	B	・コロナの影響で試食会は中止になったが、食の大切さの意識を高めるため栄養教諭から1、3、4年の児童が指導を受けている。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、6月、11月に「食育だより」をだし朝食の喫食調査を行った。6月の喫食率は99.6%である。昨年と比較すると、全体として喫食率0.4%増加している。 ・感染症対策でマニュアルを作成し、学校での対応に関する保護者文書を配布した。保健だよりにも情報を記載し、継続して衛生指導を実施していく。 ・コロナの影響により、歯科衛生士と連携した保健指導はできなかったが栄養教諭による保健指導を各学級実施した。また、11月にも実施する予定である。治療状況の把握は保健便りや懇談などで呼びかけを行っているが、まだ70%であるため11月に未受診者に調査を行う。	B	・コロナの影響で試食会は中止になった。来年度は、食の大切さの意識を高めるため、1、3、4年の栄養指導と1年生の試食会・保護者の講演や学校全体での講演を検討する。 ・朝食の必要性を保護者に伝え、6月、11月に「食育だより」により朝食の喫食調査を行った。11月の喫食率は99.6%である。6月と比較すると、全体として喫食率0.2%増加した。 ・11月に養護教諭による歯科指導を各学級で実施し、改めて歯科治療経過に関する調査を実施した。保健だよりで、学校の歯磨き有率の高さや歯科治療率の現状の掲載と歯科受診の助行を行い、う歯治療率を91%まで引き上げることができた。 ・衛生面の管理については、全校でハンカチ所有率78%、爪を切るを88%の児童ができていた。高学年になるにつれ、できている児童の割合が減少している。児童の委員会活動で調査と結果発表を行っており、保健だよりで家庭にも情報を提供しているが、今後は高学年の意識を高める保健指導が必要である。	B	特になし
	○体力づくりの推進、教科体育の充実	○外遊びを呼びかけ、健康で元気な体づくりを推進し、1週間の総運動時間が60分未満の児童が0%。	・縦割り班活動を活用し、外遊びや体づくりについて指導する。 ・体育指導ハンドブックの活用によさについて職員間で共有する。	・体育指導ハンドブックを活用し、実際に単元作りを活かすことができた。 ・1学期には、縦割り活動の中で外遊びを奨励したり、新体力テストを活用して運動を呼びかけたりすることができた。感染症や熱中症対策のため、異学年交流や外遊びが難しい期間もあり、持久走大会や縄跳び週間にはさらに総運動時間の増加を図る。	C	・体育指導ハンドブックを活用し、実際に単元作りを活かすことができた。 ・1学期には、縦割り活動の中で外遊びを奨励したり、新体力テストを活用して運動を呼びかけたりすることができた。感染症や熱中症対策のため、異学年交流や外遊びが難しい期間もあり、持久走大会や縄跳び週間にはさらに総運動時間の増加を図る。	B	・後期も体育指導ハンドブックを活用し全学年で実施をすることができた。 ・いい汗流そうタイムや縄跳び台の設置などにより外遊びをする児童が増えた。また、保護者へ新体力テストの結果を通知し、体力づくりへの啓蒙ができた。ニュースポーツのドッチボールやモルックなどの活用で児童の運動時間の増加が見られてきたので、今後も活用していきたい。	B
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日) ・学校閉庁日の設定	B	・毎週金曜日には、職員室黒板に定時退勤日の札を掲示して職員に促した。月末に事務の時間を確保して、時間外勤務の時間を減らした。 ・PTA活動の話し合い等、時間外に実施される会合に参加した教職員については、振替を設けるよう心がけている。	B	・教職員の気持ちをリフレッシュすることが、子どもたちへの教育につながっていくことを伝えてきた。金曜日の定時退勤日の推進、時間外の話し合い等の振替券の導入により、業務改善に対する意識が高まってきているように感じている。そのため勤務終了時刻後、大体2時間以内に全職員が学校を退勤するようになっている。	B	特になし

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
----------------------	--	--	--	------	--	------	--	---------	--

評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○特別支援教育	○支援体制の整備 ○ケース会議での情報共有 ○通常学級の在籍する児童の支援	○児童の正確な実態把握をする。 ○特性を持った児童や個別に支援が必要な児童の共通理解を進める。	・教育相談の時間(毎月1回)の中で情報交換をする。効果的な支援の方法を探る。 ・就学支援が必要な児童に対する対応は、特別支援教育コーディネーターを中心に計画的に実施する。	B	・支援が必要な児童の保護者とは常に連絡を取り合い、必要に応じて面談も行って、児童の実態を把握すると共に効果的な支援について話し合っている。 ・月1回の情報交換の中で支援が必要と思われる児童については、校内だけでなく、かかりつけの医療機関と連絡を取ったり、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーにも相談したりして、支援について話し合っている。	B	・支援が必要な児童の保護者と連絡を取り合い、必要に応じて面談も実施し、児童の実態把握に努め、効果的な支援について話し合った。 ・月1回の情報交換の中で支援が必要と思われる児童については、校内だけでなく、かかりつけの医療機関と連絡を取ったり、スクールカウンセラー、ソーシャルワーカーにも相談したりして、支援について話し合った。 ・登校できる日が増えたり、落ち着いて生活できることが増えたりした児童も見られる。	B	特になし

5 総合評価・ 次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>校内研究による対話活動による抵抗感、普段の相手に伝わる元気な挨拶や返事ができない児童、学校が楽しくないと思う児童が約20%等、課題が見られた。これらの課題の共通点は、人との接し方にあると思われる。ネット環境やゲーム機器の性能が高まり、今や子ども一人で遊ぶことができる社会が到来している。学校でしかできない同世代や異学年との交流等を通していく中で、自他共にお互いのことを思いやり、気持ちよく過ごせる人として育てていくことが必要であると考えられる。そのため来年度は次の3点に特化して職員一体となって児童を育てていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して過ごせる学級経営及び当たり前の生活ができる喜びを意識できる心の教育 互いに聞き合える対話活動を中心に据えた学力向上 同学年及び異学年による様々な交流
--------------------	--